

2025年(令和7年)

第82号

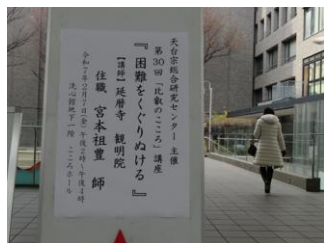
(3月4日)



発行所：立正佼成会 京都教会
 発行責任者：渉外部長 澤村悦玄
 編集委員長：渉外広報 植田恭司
 〒605-0041 京都市東山区三条東町 230
 TEL (075)762-2211 FAX (075)762-2266

第30回「比叡のころ」講座 ～池坊短期大学ころろホールにて拝聴～

第30回「比叡のころ」講座（天台宗総合研究センター主催）が2月7日、池坊短期大学ころろホールにおいて行なわれ、京都教会から約30名の会員が拝聴しました。



『困難をくぐりぬける』という講題で延暦寺観明院住職の宮本祖豊師が約45分間登壇しました。自身が行なった千日回峰行や十二年籠山行（じゅうにねんろうざんぎょう）の体験、比叡山での様子など動画も交えながら親しみ易く語りかけました。比叡山の修行は最も厳しいと言われ、行不退（ぎょうふたい：一度、行に出たら退いてはいけない）であることから、さまざまな困難を乗り越え達成出来たと述べました。

講義のあとは対談形式で僧侶になるまでの経歴や十二年籠山行に入るまでの好相行（こうそうぎょう）について語りました。目標をもって歩むと壁が出てくる

とし、心が入れ替わらない限りその壁は乗り越えられないと自身の病気を通して克服出来た体験を報告すると、会場からは驚きの声も上がりました。そして、『誠実』であることの重要性を述べ、困難をくぐりぬけるには、ご縁・自力・他力・神仏のご加護を頂くために『誠実に徳を積むことが大切』だと締めくくりました。

参加した会員からは「善きご縁を結ぶには、いかに誠実であるかが心に残りました」「今頂いているお役に覚悟を持ってのぞみ、誠実に生きたいとあらためて思いました」「これだけの大偉業を成し得た人の言葉には説得力があり、有難い気持ちになりました」「誠実な生き方を佼成会の教えに当てはめると、常に心田を耕し、生かされて生きている事への感謝を忘れず、思いやりの心で人に触れ合う事では無いかと思いました」「比叡山の生命がけの修行に感銘を受けました。本当に不惜身命の世界があるのだと、信の強さに感動致しました。私も少しでも身を惜しまない修行をさせて頂きたいです。そして自分自身の信をもっともっと深めていきたいです」など多くの喜びの声がありました。

涅槃会 ～お釈迦さまの歩まれた道を自らが歩いていく～

涅槃会式典が2月15日、教会法座席で行なわれ多くの会員が参拝しました。式典は本部のインターネット配信と教会独自の式典を織り交ぜながらのハイブリッド形式となりました。

配信後、東教会長はお言葉の中で庭野会長のご法話を受けて『禅』の話しにふれながら「2月15日はお釈迦さまの歩まれた道を自らが歩いていくと決意する日」と涅槃会の意義をかみしめました。

また、12日にKBS京都でラジオ放送された東京佼成ウインドオーケストラの特別番組についてもふれ、庭野開祖の「心豊かな人になってもらいたい」との願

いでこのオーケストラが作られたこと、そして今年が京都アニメーションの事件から七回忌にあたることや、代表作である「響け！ユーフォニアム」のモデルが京都府下の高校であることから日本放送で収録したものを京都版として制作頂いたと紹介しました。放送翌日には中・高・大学生から多くのメールがKBS京都に寄せられ、中には『将来は東京佼成ウインドオーケストラに入りたい』というメッセージがあったようでした。東教会長は「庭野開祖が残して下さったものが電波を通じて広がっている」とし、広宣流布の大切さを述べ締めくくりました。

京都教会ビデオレター3月号 配信中 ～東教会長発～

ビデオレター3月号が京都教会のホームページで公開されています。パスワードは各支部長にご確認下さい。
<https://rkk-kyoto.jp/archive1/20250301>



左記のQRコードをスマートフォンで読んで、ご覧頂くことも出来ます。地区単位、各家庭においても視聴し、1ヶ月の修行目標とさせて頂きましょう。

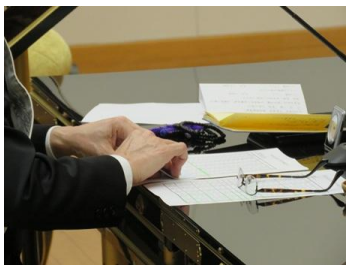


節分追儺・交通安全祈願 ～“感謝の心”が大切～



節分追儺・交通安全祈願が2月1日に行なわれ、多くの会員が参拝しました。

読経は東教会長が導師を務め、年男・年女・厄年200名と還暦25名の一人ひとりの名前を読み上げました。



その後、教会長はお言葉の中で、会員がお互い思いやって祈りあって今回の祈願をさせて頂けたとし、「布施」についての解説をしました。布と施す

で「布施」の言葉が出来ており、「布」は分け隔てなくあまねくの意味、「施」はほどこす・自分の大事なものを提供するの意味であり、過去に自身がアフリカへ毛布をおくる運動で現地

を訪れたことを述懐しました。

今回の読経供養は真読で行なわれたことについてふれ、人々の幸せを念じることが佼成会だとし、一念とは今思う心であり邪念すらおこさない思いであること、良い縁、悪い縁、すべてのご縁を吉に変えて下さい(諸縁吉祥)と読誦したと述べました。人生は良い縁ばかり出てこないことから、都合の悪いことをありがたいと思えるようになるには“感謝の心”が大切だとお釈迦さまが教えて下さったとしながら、そのような柔らかい心を作っていくには「仏さまと出会い サンガと語り合っ て 心田を耕そう」という教会信行目標が大事だとしました。

また交通安全祈願では“浄心”と揮毫したカードを制作したと披露。運転されるみなさんにお渡ししたいと述べました。



最後に節分を迎え二黒土星の年回りになることから、今年の運勢は真っすぐに上に上がりず「乙」のようにクネクネする中で身に付いていくことになると思し

た。九星それぞれの運勢の解説ではみな、熱心に聞き入っていました。式典の中では青年部の辞令授与もあり、再出発しようとする教会に大きな力が加わったように感じられました。

ユース21 京都設立25周年記念行政懇談会



ユース21 京都(理事長：澤村悦玄)は1月31日、上京区の京都ガーデンパレスにおいて設立25周年記念行政懇談会を開催し、府や市の担当者と加盟ボランティア団体の代表者との交

流を深めました。

京都府からは健康福祉部の副部長や災害ボランティアセンターの副代表、京都市からは子ども若者はぐくみ局の局長・部長、保健福祉局の室長や障害者スポーツ振興会の会長をはじめ事務担当者など、多くの来賓の出席がありました。ユース21 京都からも加盟14団体から代表者や担当者はじめ支援会員らが出席しました。開会にあたり澤村理事長は、25年間支えて頂いた感謝の気持ちを伝えるとともに、京都市はたちを祝う記念式典や天皇盃全国車いす駅伝競走大会のボラン



ティアを通じて京都の青少年育成に寄与していきたいと述べました。歓談の中では加盟団体紹介も行われ、各代表者が発表すると会場からは温かい拍手が送られました。終始、和やかな雰囲気の中、3月に迎える車いす駅伝に向け、絆が強まったようでした。